

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

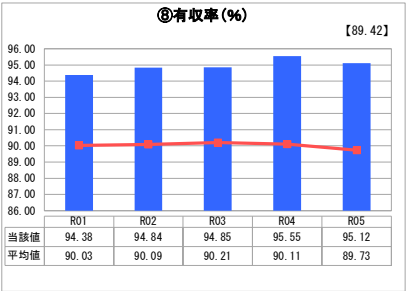
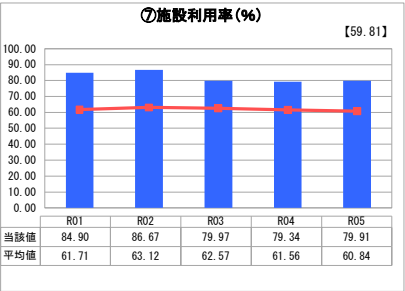
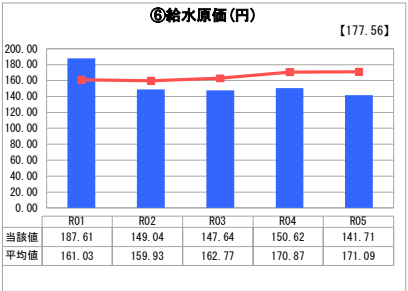
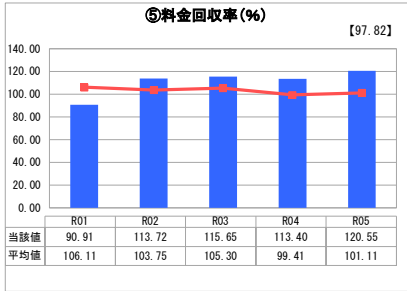
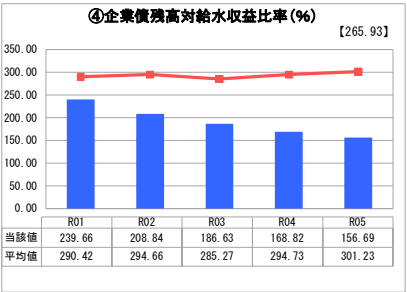
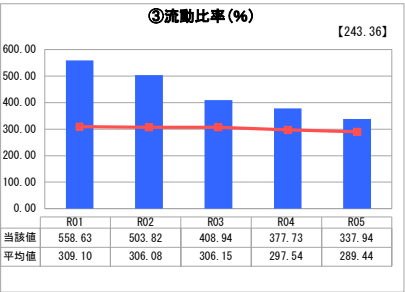
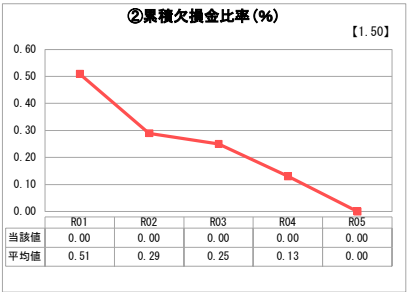
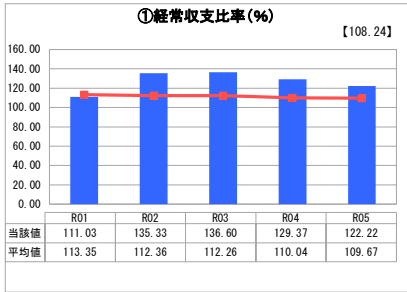
千葉県 流山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	82.04	99.69	2,673	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
210,733	35.32	5,966.39
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
210,447	35.35	5,953.24

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

令和5年度より給水申込納付金を収益的收入から資本的收入に科目変更した。これにより①経常収支比率は減少したが、前年度に引き続き100%を上回る水準で推移している。累積欠損金なく②累積欠損金比率は0%を維持。健全な経営が行われているといえる。

令和4年度決算認定に伴って、令和4年度一般会計納付金5億円にかかる剰余金処分を行った。これにより流動資産が減少したため、③流動比率は低下したが、類似団体平均値を上回り、300%を超える比率を維持しており、短期的支払能力に懸念はない。

令和5年度は7年ぶりに企業債の借入れを行ったが、償還元金以上の借入れを行わないことで企業債残高は減少した。これにより、④企業債残高対給水収益比率は低下しており、長期的にも安定した経営が行われているといえる。

⑤料金回収率は前年度に引き続き100%を上回っており、給水にかかる費用は給水収益でまかなえていることがわかる。

⑦施設利用率は前年度同様の水準を維持。類似団体平均を上回っており、適正な施設規模であるといえる。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は類似団体平均値に比し低い水準で、比較的新しい施設を有しているといえる。

②管路経年率は前年度同様に類似団体平均値を下回る水準で推移しており、老朽化の程度は低いといえる。

③管路更新率は、類似団体平均値をやや上回る水準となったが、「流山市水道ビジョン」に掲げる管路更新率2%の目標に届いておらず、着実に管路更新を行っていく必要がある。

## 全体総括

給水申込納付金の科目変更により収益的收入が減少したことから、当期純利益は前年度より減少したものの、収支の状況は堅調に推移している。企業債残高を減少させながらも手持ち資金は潤沢で、支払能力を十分に有していることなどからも、経営状況は健全であるといえる。

つくばエクスプレス沿線の区画整理事業等に伴う新設整備に労力を割いていることから、既存管路の更新率については、全国平均・類似団体平均と同様の水準を維持しながらも、目標値を達成できずにいる。今後とも人口増加に見合った必要な投資を行い、管路新設とのバランスをとりながら、既存管路の更新を着実に進めている。

## 2. 老朽化の状況

